



波紋



ホームページは
ここから

設立二十周年からの飛躍

- 未来につなぐNPO法人の運営を
 - 龍気衝天（りゆうきしょうてん）
 - 「子どもの成長を応援する関わり」の研究実践を
- 本年度もどうぞよろしくお願ひします。

認定特定非営利活動法人 教育活動総合サポートセンター
理事長 田中真喜男

認定特定非営利活動法人
教育活動総合サポートセンター
広報紙「波紋」 第21号
発行人 田中 真喜男
題字デザイン・山口正勝

発行所 教育活動総合サポートセンター
〒213-0033 川崎市高津区下作延5-11-8
TEL : 044-877-0553 FAX : 044-877-0980
E-mail : support0731@luck.ocn.ne.jp
ホームページ : http://www.kks-support.sakura.ne.jp/
印刷 西桜印刷株式会社 TEL : 03-3568-2543

2024年（令和6年）2月10日（土）に、サポートセンターの設立20周年記念研究報告会、記念式典・祝賀会が開催されました。式典には、伊藤副市長、青木市議会議長、小田嶋教育長をはじめ、総合教育センター、こども未来局、川崎市立各校種校長会長など、川崎市内の行政、議会、子どもの教育にかかわる団体を代表する皆様にご参加いただきました。さらに、日頃よりサポートセンターを支えていただいている多くの法人や企業の皆様にもご参加いただき支えられた20年の間、存続してきたことがよくわかります。

教育活動総合サポートセンターは、私たちの先輩方が、子どもたちが困難な状況を抱えていることを憂えて、手弁当で、ボランティアで運営を始めました。当初は、給料はおろか、交通費もままならない運営だったとお聞きしています。現在も給料を満足に出せる状況になっていませんが、先輩方の意思を引き継ぎ、困っている子どもたちを一人も取り残さないとい

う気持ちで働いています。記念式典に先立って、教育会館で岡田守弘先生のご指導をおおぎながら、設立20周年の研究報告会も行いました。研究テーマは、現在求められている「子どもの意見表明」を大切にしたい内容になっていました。私たちは、今までも、これからも、「こどもの声」を大切にしながらサポートセンターを運営していきたいと考えています。

最後に、辰年のこんな言葉を紹介します。「龍気衝天」強い意志や勢いが天に達するほどあることを意味しています。サポートセンターがより多くの方々知られ、子どもたちの力になれるように、皆様のより一層のご支援とご鞭撻を、お願い申し上げます。

事業計画



本年度も「子たちに力を！」の理念に基づき、定款に定められた各事業をより効果的に進めていきます。また、設立二十周年を越え、新たな歩みを踏み出します。

- ① 教育・福祉に係る相談等支援に関する事業
 - ア 教育・福祉相談事業（自主事業）
- ② 適応指導に関する事業
 - ア 子ども包括支援事業（こどもサポート南野川）
 - イ 子ども・若者等支援事業（こどもサポート旭町）
- ③ 学習支援に関する事業
 - ア 学習支援事業
 - 地域子ども子育て活動支援助成事業（補助事業）
 - （こどもサポート宮ノ下）
 - イ 学習支援・居場所づくり事業
 - 川崎区（学習支援 川崎教室）
 - 学習支援・居場所づくり事業 幸区（学習支援 幸教室）
 - エ 学習支援・居場所づくり事業 幸区（学習支援 日吉教室）
 - オ 地域の寺子屋事業（寺子屋 上作延）
 - カ 地域の寺子屋事業（寺子屋 さぎぬま）
 - キ 外国につながる子ども向け寺子屋事業（日本語支援 東小倉教室）
 - ク 外国につながる子ども向け寺子屋事業（日本語支援 幸町教室）
 - ケ 夏休み特別講座（たのしいキッズセミナー）
 - コ 科学教育の普及・啓発助成事業（補助事業）
 - （サイエンスキッズ出前科学教室）
- ④ 特別支援教育に関する事業
 - ア 中原区子どもの発達支援事業（中原区保護者ミーティング）
- ⑤ 体験活動等に関する事業
 - ア ふれあい体験活動（自主事業）
 - イ 適応指導教室あさお体験広場に係る運営管理業務（のびのびファーム）
- ⑥ 研究研修等に関する事業
 - ア 研究推進（研究報告会・不登校シンポジウム）（自主事業）
 - イ 川崎市教育会館運営管理業務
 - ウ 子どもの権利学習推進事業
- ⑦ 青少年の健全育成を図るための環境整備に関する事業
 - ア 臨時的任用教員等研修事業
 - イ 教育活動サポーター配置事業
 - ウ 特別支援教育サポーター事業
 - エ 営繕業務
- ⑧ 講演会等の企画運営に関する事業
 - ア 文化講演会・教育課題研修会
- ⑨ 文化・スポーツ活動の推進に関する事業
 - ア 大山街道ふるさと館管理運営事業（共同運営）
 - イ 友だちに薦めたいこの1冊コンクール審査
 - ウ 全市子ども作品展審査（海老沢）

設立20周年記念誌
～子たちに力を～

認定特定非営利活動法人
教育活動総合サポートセンター

大山街道ふるさと館

令和6年度は、企画展を年6回、川崎市制百周年に関連した記念講演会やふるさと探究講座を3回実施します。街道学習講座は春と秋に各3回、ふるさとまち歩き講座も2回実施します。ふるさと館まつり、ぶらり散歩やまちのマイスター体験講座も、以前の内容で実施します。

また、子ども探検クラブや近隣5校の出前授業、ふるさと発見講座、夏休みキッズウイーク、新たに自由研究サポート等、地域学習の支援をします。市民ミュージアムと連携し、市の誕生前後のくらし等、多様な企画展、講演会、広報の充実も図ります。

(石川)

教育会館・教育相談

教育会館は、川崎市の教職員と市教委職員の会議場として多くの方々にご利用されています。空調設備等の整備が終了し、夏や冬も快適に使用できるようになりました。今年度は、外壁塗装と地震で崩れた玄関周りの改修工事が行われました。

運営にあたっては、現場向けの研修会や教育相談も担当することで、教職員の活動の支援を行っています。今年度も「文化講演会」や「教育課題研修会」等を行います。今後も充実した教職員向けの研修会を行う予定です。

(永田)

臨時的任用教員等研修事業

今年度川崎市で初めて採用された臨時者の中・高校での教科一人配置校の初任者(正規職員)を対象に巡回研修を行っています。また学校長の要望により、経験のある臨時者や非常勤講師に対しても本研修が適用されています。

研修サポーターが学校に伺い、授業を見た後、様々な視点から臨任者等に対して助言を行っています。この研修は年4回、中学校の技能教科、高校の専門教科には年5回行っています。研修の機会が少ない臨時者等にとって非常に有効な研修となっています。

(前川)

学校サポーター配置

川崎市立小学校・中学校・高等学校の指導補助者(サポーター)にかかわる配置事務や研修を行う、川崎市教育委員会からの委託事業です。

大学生、教員経験者、地域協力者からなる約700名のメンバーが、さまざまな教育活動や特別支援教育のサポーターとして、市内の各小・中・高等学校に配置され、それぞれの学校の状況に応じた支援活動に努めています。

各学校からは、サポーターへの感謝とともに、この活動に対して大きな期待をいただいています。

(射越)

のびのびファーム

ゆうゆう広場あさお敷地内にある体験農園「のびのびファーム」活用の総合教育センターからの委託事業です。

農業ボランティアの方々のご指導の下、近隣の小学校2校と中学校支援級の子どもたちが、ジャガイモ・サツマイモ・大根などの種まき・植え付けと収穫など食育教育の一環として年間を通して学んでいます。天候により野菜の生育は左右されますが、昨年度はジャガイモの収穫時に熱中症の危険があり、収穫体験を先生方とボランティアで実施しました。その他は子どもたちで実施することができ、大喜びでした。

(前田高)

令和5年度自主研究

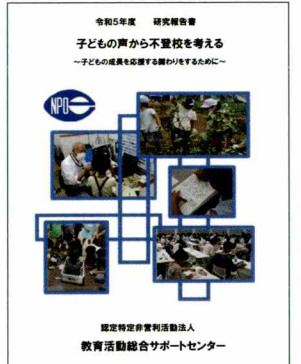
子どもたちの成長を応援する関わりをするために、子どもたちの声から不登校を考える

令和4年度から2年間の予定で本テーマに取り組みました。支援者側の一方的な思い込みによる支援を避けるために子どもたちの声を聞くことは重要です。しかし、それは簡単ではありません。不登校の子どもはコミュニケーションを苦手にする場合が多く見られます。まったく声を上げられない子どももいます。仮に聞けたとしてもどこまで本心かわかりません。どうしてそう言ったのか、支援者のどんな関わりがあったのかを支援者の反応はどうだったのかを検討してその声の背景を探りました。学習支援のスタッフからも協力を得て10例の実践事例にまとめ

研究報告会から

2月10日(土)、午後1時半から、川崎市教育会館で「20周年記念研究報告会」が開催されました。153名の参加者があり、大会議室の後方に設けた椅子席も埋まるほどの会場となりました。

最初に齋藤研究部長、研究部員



★不登校や学習不振などに悩む子どもも本人やその保護者が抱えている困り感、不安などについて、経験豊かな相談担当者が一緒に考え、解決に向けて支援をしています。対象者は、小・中学生を中心に、その保護者、学校関係者などです。学習支援については、担当者との連絡を取りながら、個別に学習支援を行っています。相談や学習支援を希望される方は、お気軽にお電話やメールをください。

電話受付 月～金曜日 9時～17時

教育相談案内
044-877-0553

★保護者同士で情報交換をしたり、体験者から話を聞いたりする「支援を必要とする子の保護者の会」や児童生徒を中心の物作り「体験活動」を計画しています。詳細は当サポーターセンターのホームページをご覧ください。

(井上)



学ぶ楽しさ わかる喜び 元気いっぱいの子どもたち

虫大好きマン

ぼくは、サポートセンターで虫の話をたくさんします。ぼくが好きな虫は、ヨロイモグラゴキブリ、ヨナグニサン、ナナホシキンカメムシ、マダガスカルゴキブリ、セセリチョウ、カラスアゲハ、グリーンバナナゴキブリ、ヤマトセセリ、オオカマキリです。虫のことを、パソコンでユーチューブを見てしらべています。行きたいところは、石垣島とオーストラリアです。じつさいに虫を見てみたいです。(小4 K・S)

当サポートセンターは、昨年設立20周年を迎えました。開設当時から、宮ノ下では不登校など支援を必要とする子どもの学習支援や保護者の相談活動を続けています。

学習は、子どもの声に耳を傾けながら一対一で学習支援を行い、安心できる場所、時間となるように努めています。個々に合った学習や支援者との交流で子どもを応援します。

教育相談は、月曜から金曜の9時～17時、電話やメールでお受けしています。一人一人に合う学習環境をご一緒に考えていきます。(保崎)

6年生になつたら

ぼくは6年生になったら頑張りたいことが三つあります。一つ目は、社会の歴史の人物を覚えることです。覚えられるか心配だけど楽しみます。二つ目は、下の学年の見本になることです。1年生にランドセルの準備のし方や、牛乳パックのたみ方などを教えてあげたいです。三つ目は、泳げるようになることです。今は、スイミングに通い始めました。目標は、クロールで25メートル泳げるようになることです。(小5 K・K)

サポートセンターで、いざ一対一で勉強するととなると、緊張して

頑張っている私

サポートセンターに通い始めて2年以上経ちます。今まではほとんど行き渋ることもなく、時間間に合うように起きて支度をしているところを見ると、どうやら楽しく通っているようです。

中学は、『N中等部』というところに、まずは来年度に向けて、少しずつ準備が進んでいます。年始の初詣、神社で娘は学業成就のお守りをお

今まで通り、サポートセンターがある

保護者の私にとっては何よりの安心できる事実です。

『今まで通りサポートセンターがある』

行けない日が続いていました。通い始めて五ヶ月ほど経ちますが、正直今でも行く前は憂うつな気分だけれど、終わった後は達成感が得られるので、継続的に頑張っています。

私は、文章を自分で考えて書くのが苦手ですが、担当の先生に褒めてもらえて少しずつ自信が持てるようになりました。

中学生になつたら少しでも勉強に追いつけるように頑張りたいです。(小6 K・S)

感謝

私は去年から、サポートセンターに通っており、数学と英語を教えてもらっています。私はそこまです英語が好きではなかったです。動詞など単語がよく分かってなかったのですが、学校の英語の先生から「日本語より覚えやすいよ。」と言われ、嘘だと思いました。今では、サポートセンターで丁寧を教えてもらって少しは分かっていると思います。数学も前よりわかるように

楽しい授業

私がサポートセンターで学んだことを紹介します。

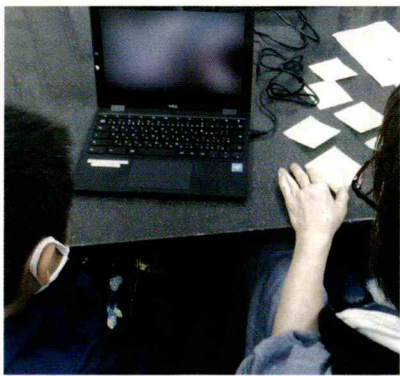
私は美術と数学を勉強しました。美術では、絵の具の使い方、デザイン、透視図法、絵画の模写、イラストや背景の描き方を学びました。数学で学んだことは因数分解、正の数・負の数、これまでの復習や受験の勉強を学びました。

サポートセンターでの学習の良い所は、一対一で学べることです。分からないところはすぐ先生に聞くことができるからです。私にとつて分かりやすく、楽しい授業でした。(中3 G・N)



Try to change

中2から数学を学びました。初めは先生と一対一で勉強するのに抵抗がありました。先生に「自分のペースで勉強していこう」とアドバイスを受けてから気持ちが変わりました。中3になり色々なことに挑戦したいと思い、NZ(ニュージーランド)の体験留学に参加しました。伸び伸びとした現地の学校に驚き、自分にNZがあつていと感じ3年間の高校留学を決意しました。留学先でも数学を学ぶのでここで勉強したことを生かしたいと思っています。(中3 H・Y)



学習支援・居場所づくり

平成24年4月、健康福祉局に生活保護・自立支援室が創設され、「子どもの学習支援・居場所づくり事業」が始まりました。生活困窮世帯の子どもたちへの学習支援を行うことで、高校進学を支援し、健全な学校生活を送り、卒業後も大学進学や就労すること、経済的に安定した生活を送り、「貧困の連鎖」を防止することを目的として計画された事業です。各教室に通う中学生が目標をもって学習に取り組み、希望する高校に進学できるように学習支援を行っています。

対象は川崎市在住の生活保護世帯等の中学生でした。令和元年6月から新た

| | | |
|------|-----|-----|
| 公立高校 | 全日制 | 22人 |
| | 定時制 | 2人 |
| | 通信制 | |
| | その他 | |
| | 小計 | 24人 |
| 私立高校 | 全日制 | 2人 |
| | 定時制 | |
| | 通信制 | |
| | その他 | 2人 |
| その他 | | 2人 |
| 合計 | | 28人 |

に小学生を対象にした教室が開設され、さらにひとり親家庭の中学生も対象になりました。今年度も昨年度と同様、川崎区で川崎教室、幸区で幸教室と日吉教室の3教室を開設しています。各教室では、コーディネーター、学習支援専門員(教員OB)を中心に、学習サポーター(教員OBや市民、大学生等)が子どもたちの学習支援にあたっています。

令和5年度の中学3年生の進路状況は次のとおりです。(星野)

こどもサポート旭町

「こどもサポート旭町」には子どもたちがつけてくれた「STEP&Go」という愛称があります。不登校や引きこもり等の子どもたちが安心して過ごせる居場所であり、自信をもって巣立つていける場所であることを目指して、平成22年度に開所され、令和5年度からは、こども未来局の事業として委託を受け運営しています。多くの小・中・高生(相談のみ)が利用しています。週4日(月・木・土)10時~16時、学習・スポーツ・ゲーム・調理等、旭町こども文化センター3階で笑顔あふれる楽しい時間を過ごしています。(小島)

こどもサポート南野川

「こどもサポート南野川」は、不登校や引きこもりの子どもたちの居場所として、子どもたちが一歩踏み出す事ができるようにと応援してきました。自分と決める力は大切です。目標を持つて学習を頑張る子、畑の作業を楽しむ子、収穫した野菜で調理に挑戦する子、物作りで力を発揮する子、ゲームや卓球で人との関わりを学ぶ子。そのやり方は十人十色。自分が選択した活動を通して、ゆっくりと力をつけ、自信と心の安定を取り戻していくようです。緑豊かな自然も、来所する子どもたちに寄り添い励ましてくれます。(前田純)

たのしいキッズセミナー

キッズセミナーは、夏休みに発展学習、体験学習、実験などを取り入れた公開講座です。4日間で午前と午後、16講座が開催され、延べ350人余りの児童が参加しました。今年度も新型コロナウイルス感染症防止のためマスクの着用、密にならない会場設計など感染防止対策を徹底して実施しました。楽しい国語・レベルアップ算数、おもしろ科学、わくわく造形教室、キッズパソコンなど全ての講座が実施されました。子どもたちにとって楽しく学ぶことができ、充実した講座となりました。参観の皆様も子どもたちの学びの姿を見て、笑顔があふれていました。(秋場)

地域の寺子屋

平成26年、「子どもたちが夢や希望を持って前向きに生きて欲しい」という市長の熱い思いを受け、寺子屋事業がスタートして以来、昨年度に10周年を迎えました。

①設置目的
子どもたちに様々な学習機会を提供することにより、学力向上や豊かな人間性の形成を図ります。
・地域ぐるみで児童生徒の教育及び学習をサポートする仕組みを作ることにより、地域の教育力の向上を図ります。
・シニア世代をはじめとする地域人材の知識及び経験を生かして、様々な世代で学ぶ生涯学習の拠点をつくりま

②活動内容
これらの目的のもと、「寺子屋さぎぬま」「寺子屋上作延」では週1回の学習支援と月1回の体験活動を実施しています。
令和5年度はコロナ禍も随分取り、通常の活動が復活しました。学習支援では寺子屋プリントや宿題、お楽しみ学習に取り組みしました。体験活動では専門に活躍している講師を招き、「手作りたこ」「ちぎり絵」など様々な活動を行いました。(藤田)



サイエンスキッズ

サイエンスキッズの活動は、今年度で19年目になります。感染症予防が緩和され、昨年度の出前科学教室は、通常の年と同様に実施されました。3校で6回延べ234人の参加があり、とても楽しいとの感想を頂きました。キッズセミナー(科学・理科の講座)と冬のサイエンスキッズ講座では、延べ295人の参加がありました。冬のサイエンスキッズ講座は、周年行事の関係で少ない開催でしたが、参加された皆さんの元気な姿に励まされて、充実した講座になりました。今年度も、子どもたちと共に楽しい物づくりに取り組めます。(志村)

外国につながる子ども向け寺子屋

昨年度から「外国につながる子ども向け寺子屋事業」として、幸区において東小倉教室、幸町教室を開室しています。教室では地域の市民サポーターのご協力を得ながら、子どもたちのニーズに応じて日本語や科学学習を支援します。子どもの生活言語習得には目を見張るものがありますが、教科書が読めても意味がわからないなどの困り感をもってきます。教室ではお楽しみ会などを企画し、楽しく安心できる居場所となるよう努めます。(堤・保崎)

編集後記

サポーターセンターは昨年度で設立20年となりました。20周年記念誌を見ると、いかにたくさんの先輩方が苦勞されてサポーターセンターを発展させてくれたか、また、情熱を持って子どもたちと向き合い、子どもたちと共に学び、実践されてきたか、ということがよくわかります。

私たちはここで、設立のおもい「子たちに力を 子たちと夢を」をもう一度合言葉として、さらに前進していきたくと思います。そして、変えていくものと変えてはいけないものを見きわめ、持続可能な活動を進めていきたいと思えます。(海老沢)